

「教科書は、なぜタダになったの？」シナリオ

【一の場面】「はじまり」

- 子ども1 わたしたちは、毎年4月と9月に教科書をタダでもらっています。
- 子ども2 でも、昔は教科書は小学生でも買わなければなりませんでした。
- 子ども3 みなさんは、教科書がなぜタダになったのか、知っていますか？
- 子ども4 今日は、「教科書は、なぜタダになったの？」という劇をします。
- 子ども5 なぜ教科書がタダになったのか、そのわけをみんなも考えながら見てください。
- 子ども6 それでは、劇のはじまり、はじまり～。
- ぜんいん うた
全員で歌う
- (高知県、土佐の浜辺の風景)
♪土佐の高知の播磨屋橋で
坊さん かんざし買うを見た
ヨサコイ ヨサコイ
- ナレーター1 ここは、四国の高知県の海沿いの村です。浜では、大勢のおとなや子どもたちが地曳き網を引いて魚を捕っています。
- ぜんいん
全員 「ヨイサッ！」(半分) 「ヨイサッ！」(半分)
- ナレーター2 網の中には、たくさんのいわしやジャコが、ピチピチと飛び跳ねています。
- 子ども7 「今日も、大漁じゃあ！」(活きのいい魚をかかえる。)
- ナレーター3 1950年(昭和25年)頃、浜では朝から晩まで地曳き網の手伝いや、小さな子の子守、弁当運びなどをする子どもたちの姿がありました。実は、ここが教科書がタダになるきっかけをつくった場所なのです。

に ぼめん しうがんじけん
【二の場面】「紫雲丸事件」

(1955年(昭和30年)5月11日)

ナレーター 4

1955年(昭和30年)5月11日、今日は浜の中学生たちが楽しみにしていた修学旅行の日です。中学生たちを乗せた船は、深い霧の中、朝早く港を出発しました。ところが、午前7時前、大きな貨物船と衝突し、中学生たちを乗せた船は、みるみる海へと沈んでいきました。
(沈んでいく船の背景)

ちゆうがくせい
中学生 1

「あ！いけない！お母ちゃんが親戚の人から借りてくれたボストンバッグを取りに行かないと！」(船の中にあわててもどる。)

ナレーター 5

今にも沈みそうな船の中で、浜の中学生たちは船の中にバッグを取りに行きました。そのバッグは、小さい頃から親と一緒に働き、中学校を卒業したらすぐに働きに出なければならぬ子どもたちのために、せめて友だちとの最後の思い出をつくってやりたいと願っていた家族が、必死で借りてくれたものだったのです。また、浜の中学校にはプールがなく、中学生たちは海の近くで生活していても、泳ぐことができませんでした。中学生の子どもたちは、沈んでいく船とともに命を落としていきました。

ナレーター 6

この事件は、浜のおとなたちを深い悲しみの中に突き落としました。

はま ひと
浜の人 1

「差別で家が貧しくなかつたら、子どもたちにバッグを買ってやれたのに…。」

はま ひと
浜の人 2

「そうすれば、バッグを取りに戻ったりもしなかつたらうに…。」

はま ひと
浜の人 3

「中学校にプールをつくるお金があれば、子どもたちもおぼれずにすんだかもしれない…。」

はま ひと
浜の人 4

「おれたちは、差別を受けてもがまんでできる。でも、せめて子どもたちにだけは、満足な教育を受けさせたい。」

はま ひと
浜の人 5

「わしらがもっと世の中のことを勉強して、この差別をなんとかしていかなければ…。」

ナレーター 7

そうして、浜のおとなたちの中で、世の中のこと、差別のこと、平和のことなどを勉強する会がはじまっていきました。

さん ぼめん きょうかしょ
【三の場面】「教科書をタダにしよう！」

ナレーター 8

このころの学校は、教科書も親が買ってやらなくてはなりません。それだけではなく、親たちがお金を出さないと、学校に体育館やプールもできなかったのです。また、このころまわりの地域のおとなたちの中には、「浜に住んでいるやつらは、ろくでもないやつばかりじゃ。」「浜に住んでいるもんは、自分たちよりも下じゃ。」というまちがった考えを持っている人がたくさんいました。そんな差別の中で、浜のおとなたちは、いくらがんばっても十分なお金をかせぐことができなかったのです。だから、子どもたちは小さいときから学校にも行かず、家の手伝いをしなければならなかったのです。だから、中学校にプールもつくれなかったのです。

ナレーター 9

ねん しょうわ ねん がつ
(1961年(昭和36年)2月)
ねん しょうわ ねん がつ はま べんきょうかい
1961年(昭和36年)2月、浜のおとなたちの勉強会でのことです。

はま ひと
浜の人 6

ひと ねが なん か
「いくらえらい人をお願いしても、何にも変わらん。どうしたもんかのう。」

はま ひと
浜の人 7

あいだ べんきょうかい に ほんこくけんぽう くに べんきょう なか
「この間、勉強会で日本国憲法っていう国のきまりの勉強をしとったら、その中
ぎ むきょういく ぎ むきょういく むしやう か がっこう いえ
に『義務教育は、これを無償とする』って書いてあったぞ。義務教育って、小
がっこう ちゅうがっこう むしやう
学校や中学校のことじゃろ？『無償』っていうのは、『タダ』ってことじゃろ？
きょうかしょ おや か くに やぶ
それなら、教科書を親が買うのは、国のきまりを破っているのどちがうんか？」

はま ひと
浜の人 8

とお くに まも ことし
「おお、そうじゃ。その通りじゃ。国のきまりは守らなきゃいかん。今年から、
きょうかしょ か
教科書を買うのをやめよう！」

はま ひと
浜の人 9

くに まも きょうかしょ くば
「そうじゃ！国のきまりを守るために、教科書はタダで配ってもらおう！」

ナレーター 10

きょうかしょ かい
そうして、「教科書をタダにする会」がつくられました。

よん ぼめん きょうかしょ
【四の場面】「教科書をタダにするたたかい」

- ナレーター 11
きょうかしょ かい おうだんまく ひとびと はいけい
（「教科書をタダにする会」の横断幕と人々の背景）
「国のきまりを守るために、教科書をタダにしよう！」という活動は、みるみるうちにおとなたちに広がっていきました。差別を受けていた人たちだけでなく、それまで差別をしていたおとなたちも、「それはいい活動だ」と協力してくれるようになりました。また、家の手伝いで学校に来られない子どもたちを心配していた小学校や中学校の先生たちも協力してくれました。
- ナレーター 12
きょうかしょ かい あつ ぎいん ねが い
「教科書をタダにする会」に集まったおとなたちは、議員さんたちにもお願いに行きました。すると、議員さんたちも「それはいいことだし、正しいことだ。国にお願いしよう！」という意見書もつくってくれました。タダにする会のおとなたちは、みんなわくわくしてきました。
- はま ひと
浜の人 10
くに まも
「これで、国のきまりを守ることができるぞ！」
- はま ひと
浜の人 11
こ きょうかしょ くぼ
「ぜんぶの子どもたちに、教科書をタダで配ることができるぞ！」
- ナレーター 13
まんかい さくら がっこう はいけい
（満開の桜と学校の背景）
4月、教科書を買う日がやってきました。たくさんのおとなたちが、教科書を買わないことに協力してくれました。しかし、そう簡単にはいきません。全員の子どもたちに教科書を配るためには、たくさんのお金がいります。
- しちょう
市長 1
くに まも きょうかしょ くぼ ただ
「国のきまりを守るために、教科書をタダで配るとするのは、正しいことです。しかし、タダで配るためのお金がありません。お金がない人にはタダで配るようにはしますので、教科書を買える人は、買ってもらえませんか。」
- ナレーター 14
しちょう しょうがっこう ちゅうがっこう おや ねが
市長さんは、小学校や中学校の親たちにお願ひしました。
- はま ひと
浜の人 12
きょうかしょ か くぼ い
「わたしたちは、教科書を買えないからタダで配ってくださいと言っているのはありません。」
- はま ひと
浜の人 13
くに まも い
「国のきまりを守るためにタダにしましょうと言っているんです。」
- はま ひと
浜の人 14
くに まも
「国のきまりをみんなで守れるようにしましょう！」
- ナレーター 15
うつた
たくさんのおとなたちが、訴えました。
- ナレーター 16
しちょう ねが き きょうかしょ か おや で なか
しかし、市長さんのお願ひを聞いて、教科書を買う親たちも出てきました。中には、こんな声も聞かれるようになりました。

- おとな 1 「教科書きょうかしょを買う金かを出だしたくなくて、こんなことしてるんだろう！」
- おとな 2 「こんなことをするのは、意地汚いじきたない浜はまのやつらだろう！」
- おとな 3 「みんな、浜はまのやつらにだまされてるんだ！」
- ナレーター 17 しばらく眠ねむっていた差別さべつする心こころが、またおとなたちの中に起き上おがってきいたので、そんな差別さべつの中で、半分以上はんぶんいじょうの人が「タダにする会かい」から離はなれていきました。しかし、小学校しょうがっこうや中学校ちゅうがっこうの先生せんせいたちは、自分たちで学習がくしゅうプリントをつくって、「タダにする会かい」を応援おうえんしました。残のこった5百人ひゃくにんのおとなたちも、まわりからひどいことを言いわれながら、「自分たちがやっていることは、正しいことだ！」と活動かつどうを続つづけました。
- ナレーター 18 (新緑しんりよくと学校がっこうの背景はいけい)
そして、5月がつ。議員ぎいんさんたちは「これまでの5倍ばいの2百人ひゃくにんの子こどもに教科書きょうかしょを配くばるようにしてもらった。国くにがお金かねをつけてくれなければ全員ぜんいんタダは無理むりだ。これを受け入れうけいれなさい。」とタダにする会かいに伝つたえました。「タダにする会かい」に残のこった5百人ひゃくにんのおとなたちは、話し合はないました。
- はま ひと 15 浜はまの人ひと 15 「おれたちの力ちからが足りたりなかつた。情なさけないのう。」
- はま ひと 16 浜はまの人ひと 16 「でも、国くに中にじゅうにわたしらの意見いけんを伝つたえることができた。負まけたわけじゃない。」
- はま ひと 17 浜はまの人ひと 17 「教科書きょうかしょを買かえない子こどもだけに配くばるっていうのは、納得なつとくいかんけど、それがほかの地区ちくにも広ひろがったことは、よかつたんじゃないか。」
- はま ひと 18 浜はまの人ひと 18 「国くにのきまりを守まもるたたかいなんて、はじめてじゃつた。いっばい裏切うらぎられたけど、5百人ひゃくにんも残のこってくれたのはうれしかつたのう。」
- はま ひと 19 浜はまの人ひと 19 「やっぱり、差別さべつはきびしいのう。まだまだ、差別さべつとのたたかいつづは続つづくのう。」
- ナレーター 19 そうして、「タダにする会かい」に残のこった5百人ひゃくにんで、2百人分ひゃくにんぶんの教科書代きょうかしょだいを分け合わいました。次つぎの日ひ、学校がっこうでは教科書きょうかしょをもらえった子どもたちの笑えが顔がおがあふれていました。教科書きょうかしょをタダにする会かいはその後ごも、小ちいさな活動かつどうを続つづけていきました。

こ ぼめん
【五の場面】「それから…」

(1963年(昭和38年)12月18日)

ナレーター 20

「教科書をタダにする会」の活動から、2年後の1963年(昭和38年)12月18日、ここは国会議事堂、国のきまりを決める話し合いです。

こつかいぎじどう なか はいけい
(国会議事堂の中の背景)

こつかいぎいん
国会議員 1

『義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律』に賛成の諸君の起立を求めます。」

こつかいぎいん
国会議員たち

ぜんいん きりつ
(全員が、起立する。)

こつかいぎいん
国会議員 2

かはんすう みと ほんあん かけつ
「過半数と認めます。よって、本案は可決されました。」

ナレーター 21

この前の年、総理大臣だった池田首相は、国のきまりである「義務教育を無償にする」ことを守るために、小中学校の教科書をタダにするためのきまりをつくることを決めていました。高知県の小さな浜のおとなたちの活動が、その後全国に広がり、とうとう国を動かしたのです。そして…。全国の小・中学生が教科書をタダでもらえることになったのです。

ぜんいん とうじょう
(全員、登場する。)

こ
子ども 8

こうして、たくさんの人たちの努力によって、わたしたちは今、教科書をタダでもらっています。

こ
子ども 9

そのことを忘れなければ、きっと教科書を大切に使うようになるはずです。

こ
子ども 10

そして、わたしたちが忘れてはならないことがもう一つ。

こ
子ども 11

それは、「差別をなくす活動は、みんなの幸せにつながる」ということです。

こ
子ども 12

まだまだ、わたしたちの中には、いじめや差別をする心が残っています。

こ
子ども 13

これからは、教科書をタダでもらっているわたしたちが、いじめや差別をなくして、みんなが幸せになれる学校や世の中をつくっていきましょう。

こ
子ども 14

これで、「教科書はなぜタダになったの？」の劇を終わります。
れい。

ぜんいん
全員

ありがとうございました！